

2023年 ボルネオ、ネペンテス観察探検記 探検前半編

出発前

コロナによる長い休止期間を経て、本年やっと久しぶりにボルネオにネペンテスの観察探検ツアーを行うことができましたので、報告させていただきます。

思えば2020年初め、コロナが広がる前にすでに2020年のボルネオツアーは計画されていました。休みの日程も取って、行く山の候補も決めて、早々と飛行機も予約して準備していました…。しかし、ご存じの通りのコロナ蔓延で海外旅行どころではなくなり、飛行機も飛ばないことに…。やむを得ず2020年のボルネオ探検は断念して、じっと待つこと3年、やっと今年海外にも行くことが容易になって、2019年以来4年ぶりにボルネオに行くことができました。2020年に予約・支払していた飛行機代は、結局引き換えクーポンも使えず消えてしまいました…。(涙)

さて、2023年のツアーの内容ですが、平川さんが現地ガイドといろいろと交渉してくれて内容を決めてくれました。9月18日から28日の10日間の探検です。残念ながら今回も行こうと思っていたマライパライは、キナバル山のルート開設検討中のため許可が出ませんでした。行きたいと思っていたもう一か所のサヤップは何とか許可を得ることができましたが、山の中でキャンプができるかどうかは、現地に行ってレンジャーと話をしないと決まらないとのことでした。ちょっと不安です。後半はいろいろ検討しましたが、現地ガイドの勧めもあって、まだあまりネペンテスの探検が行われていないシンシン山に行くということにしました。この山は現地ガイドの人さえ行ったことがないという山で、ほとんど情報がなくてとても不安ですが日程に組み込みました。今回の参加者は6名、私、平川さん、鳥山さん、石井さん、大西さんと前回も参加した方々に、今回は長谷部先生も参加されるということになり、心強い専門家が加わりました。

今回の探検ではテント泊が6泊と多いので、久しぶりにテントを出して確認して、シュラフやマットなども久しぶりに出して干したりしました。飛行機は往復コタキナバルまでの直行便を予約していたのですが、出発前に帰りの直行便がキャンセルになってしまい、かってにクアラルンプール経由の乗り換え便に変更されてしまいました。直行便で深夜発の成田早到着での予定でしたが、成田着が夕方になってしまいました。さらにマレーシアエアラインが食事の提供方法を変えたとかで、飛行中は簡易な食事パックしか出せないとのメールも来ました。出発直前で詐欺のようですが、どうしようもないのでなんか食べ物も買って持っておこうかという話にもなりました。さらに出発前日には、行きの飛行機の出発時刻が1時間遅くなるのお知らせも。まあこれは私にとってはどちらかというありがたいお知らせでした。

探検初日

出発当日早朝、地元駅始発の成田エクスプレスに乗ります。これで元の飛行機出発時間の一時間半前に成田空港到着というぎりぎりの時間の到着予定でしたが、飛行機が一時間遅れるとのことで少し余裕が…、と思って乗っていたら新宿駅でいきなりストップ、なんでも信号トラブルで連結列車が遅れていて発車できないとのこと。20分くらい停車、元の飛行機出発時間だったら遅刻の冷や汗ものです。まあなんとか予定より30分遅れでその後は進行、ただいつも車内モニターに各航空機の出発予定時刻と使用ターミナルの案内が出るのに今日は全く案内なし、遅れているから出さないのか？そうこうしているうちに成田空港に、そこでなぜか勝手にターミナル1だよなーっと思って終点まで行っておりました。発

券カウンターのフロアに行ったけどマレーシア航空がない！！やってしまいました！マレーシア航空はターミナル2でした。あわてて、ターミナル2に行くバスの乗り場を教えてもらって、駆け込みでバスに乗ってターミナルを移動、バスが速く動かないかと冷や冷やしました。何とかターミナル2について急いでカウンターへ、途中焦ってカートを押して走っているところで今回の参加者の大西さんと会いました。まだ時間大丈夫ですよとの言葉で安心してカウンターへ、無事荷物も預けてチェックイン。結局出発の1時間半前で、飛行機が遅れた時間を電車の遅れとターミナル間違いで消化してしまった形になりました。ちなみに事前チェックインしていたのに、なかなか本人が現れないので出発ロビーの放送で何度か名前を呼ばれていたそうです…。さいさきの悪いスタートでした。出発ロビーで平川さん、鳥山さん、大西さん、長谷部さんと合流、久しぶりのボルネオ探検に話がはずみます。

心配されていた機内食は日本初の飛行機だからかいつも通りの機内食で、なぜかサービスも良くて、ビールを3缶ワインも2杯飲んでしまいました。約6時間の飛行で午後3時半過ぎに無事にコタキナバルに到着、曇っていますがうーん久しぶりのマレーシアのにおい！ 出口にはガイドのマイクが待っていてくれました。スラムットプタン、アパカバ？約4年ぶりの再会です。すぐに市内のホテルに移動してチェックイン、そして近場の市場のドリアンを食べさせてくれる出店へお散歩、実は長谷部さんはドリアンが大好き、さっそく2種類ほど選んで割ってもらっておいしそうに食べています。ちなみに、私はドリアンが苦手なので全く食べず。そのあとはスーパーに行って明日から必要な水などを購入。18時半に夕食、近く中華レストランで久しぶりの再会を祝いながら食事を楽しみました。夜はかなり雨が降っていました。天候が気になります。そして実際、かなり天候にはつらい思いをさせられます。

探検2日目

7時に朝食、近くの豚肉も扱っているお店へ、私は豚肉入りのスープ麺と練乳入りのあまーいコーヒー、コピスを。おいしい、マレーシアの味です。石井さんは昨夜事前に来ていたブルネイから到着されていて今朝から合流です。8時にピックアップトラック型の2台の車に分乗して出発。最初の目的地サヤップに向かいます。10時にガイドさんがキャンプ食糧買い出しでトイレ休憩。10時半ごろから舗装道路ではなくなり、がたがたの細い未舗装道路を進むことに。大きく揺られながら進んで、11時10分にサヤ



ップのガイドの人が経営する農園に到着。ドリアンなどを栽培している農場のようで、何種類ものドリアンを試食させていただき長谷部さんは大喜び。3-4種類剥いていただいたが、ドリアンは全部で200種類もあるとのこと結構種類で甘さなどが違うようでした（私はほんのちょっとしか食べていない）。そのほかにもジャックフルーツやマンゴスチン、カカオ、パッションフルーツなどを作っていて一部はもいでもらって試食、特に Tarap タラップというジャックフルーツに似た果物が初めて食べておいしかったです。お昼

ごろから雲行きが怪しくなって雨が降り出しました。12時過ぎに最後の村のところでランチ、SOTOというスープ麺を食べました。そこからは結構な上り坂の細いがたがた道を進みます。標高がぐんぐん高くなり、650mのところあたりでゲートを通過、雨もだんだん激しくなり、13時45分にやっとサヤップのベースステーションにつきました。ここで標高が973m。テントが張れる大きな吹き抜けの建物がありますが、そこはすでに先客が使用中のようです。我々は、東屋のような建物の下にテントを張ったり、



川向こうの東屋でシュラフで寝ることにしました。雨がだんだん激しくなってきました。ステーションの真ん中に流れている川は、コンクリートの上を歩いて渡るのですが、水かさが増えてわたるのが難しくなってきました。ひとまず私はテントを立てて、その中でのんびり夕飯まで過ごします。18時に夕飯、大きなクツワムシのようなバッタがお出迎えしてくれました。来る途中で買った卵の炒めものや鶏肉煮込み、ヤム芋など、おいしい。

明日から登る山の入山申請書にサインして、8時過ぎには寝ました。夜半には雨が止んだようです。

探検3日目

さあ、いよいよ登山開始の日です。5時に起床、準備して6時にはテントをたたみます。ポーターさんに持ってもらった荷物とここに残しておく荷物に分けます。7時に朝食、ヌードルスープとフライドライス、マンゴスチンにパイナップル。8時に出発式、ガイドさんの紹介や担当してくれるポーターさんの紹介、各自の荷物の計量、私は18キロでした。そのうち水が4キロ、自分が持つのは1.5Lの水とお昼ご飯、雨具など。全員で記念写真を撮って8時半ごろから歩き出しました、今日上る道の距離は6キロほどのことでしたが、頂上のすぐ下まで登るようなので標高差はかなりありそう、4年ぶりの本格登山で体力が心配です。最初の1キロは道も広くならかな登りです。途中小さな川を石伝いで渡って、そこからはまた1キロほど細い緩やかな登りが続きました。この辺でいきました!!ヒルが靴についています。慌てて払いますがヒルの多いところのようです。10時ごろから急に勾配がきつくなり始めました。ずっと崖のよ



う急坂を木々に両手でつかまりながら登っていきます。途中にはロープが下がっている急こう配もあり、ロープをつかんで注意しながら登っていきませんが、体力的にかなりつらい。何とか遅れないように登りますが、いつものようにあまりのきつさに、なんでこんなところ来ちゃったんだろうという後悔が始まります。でもとにかく歩かないと、ここで止まってはダメと自分に言い聞かせながら登ります。標高1500メートルを超えました。その後もう

たすら崖のようなところを登って、11時45分に、休憩できる場所に到着、ここで標高1780mです、3時間で800メートル登りました、きついわけだ。しかし、まだなんと500メートル近く登らなければいけないとのこと…心が折れそうになります。お昼ご飯を食べますが半分くらい食べるのがやっと、水が少なくなったのでポーターさんの荷物から取ろうと思ったけど、私のポーターさんはまだ来ていないよう、水を運んでいるポーターさんに水を分けてもらいました。ちょっとしゃがんでみるとヒルが登ってきます。ヒルに注意しつつ、つかの間の休息、塩レモン飴舐めて少し元気出します。12時半に出発、その後もとにかく急な登り道が続きます、ロープで登る箇所も多い、前回のマンタポックもつらかったけど、今回過去一番の過酷な登山になりました（来るたびに毎回今回が一番過酷だと感じている。）。耐え忍んで、14時にやっと今日の目的地のキャンプできる場所に着きました。やったー!!よく頑張った!!!と自分を褒めます。ここで標高2090mです、1100m以上登りました。雨が降ってきました、テントを張らなければいけないのですが、私の荷物を持ったポーターさんがなか



なか登ってきません。標高が高く気温も低い中体が冷えてきて寒いです。ポーターさんをひたすら待ちながら、寒いのでマイクが夕食の準備をしている火のところに座って何とか体を温めます。16時にやっとポーターさんが登ってきました。若くてこの山の登山が初めてのポーターさんだったので時間がかかったようです。急いで空いている場所にテントを立てます。一部の平らなところは雨水がたまっていてテントは張れませんでした。5時に夕食、鶏のカレー風煮物とごはん、雨が降っていてタープを雨除け張った場所が狭いので、みんな立ちながらご飯を食べます。その後も雨はふりつづけました。テントを4年ぶりに使ったのと、すでに10年近く使っているので防水力が弱ってきているのか、テントの中に水がしみてきてしまいました。たいへん！！ひとまず小さなレジャーシートを水がしみてくる方に敷いて水はけを良くして雨水が流れてくるところを防ぎましたが、テントの中が全体的に湿ってしまい、内部結露もひどくてかなり過酷な状態で寝ることになりました、シュラフも外側が湿った状態。こんな中、日本で買ってスマホに入れていたマレーシアで使えるというSIMが急に使用可能になりました。山の頂上のほうが電波が良いのか？ひとまず過酷なテントの中を撮って、SNSに挙げてみました。こんなところでネットがつながるとは・・・雨はしばらく降り続きましたが、朝までにはあがっていました。

探検3日目

4時に起床、5時に朝食、おかゆとおじや。6時にテントなど



のままにして登山開始、少しきついのがりでしたがほどなくして頂上に、6時20分に minodtuhan 山の頂上に到着しました。



グループで登頂記念の写真を撮ります。看板では標高は2360mですが手元の高度計では2190mでした。でもまだネペンテスはありません、いやキャンプ地出て途中少し *N. tentaculata* がありました。*N. edwardsiana* があるところまではもう少しということで、尾根伝いの道を進んでいきます。7時ついに *N. edwardsiana* があるところにつきました。一株しかないようですがきれいな壺がついていました。ここサヤップには、イエロータイプやグリーンタイプの *N. edwardsiana* があ



ると聞いていましたが、壺部分が黄緑でぎざぎざの襟が赤いきれいな壺です。木に寄り添って徒長していて上のほうにも壺がついているようでした、襟が黒くなり始めている古い壺もありましたが、壺胴体は黄緑のままでした。順番に写真を撮ってさらに尾根伝いに登ります。木がすごく苔むしています、苔むした木の間をくぐったり、根を乗り越えたりしながら進んで8時ごろ、*N. lowii* と *N. edwardsiana* があるところにつきました。*N. edwardsiana* は2-3株、*N. lowii* はかなり伸びていて数株あるようです。この *N. edwardsiana* は少し赤みが入る黄緑壺タイプと赤い壺タイプがありま



した。 *N. lowii* にはあの特徴的な尿瓶型の壺がぶらぶらとたくさん下がっています。この先かなりの登りを2時間ぐらい行ったところに *N. x harryana* が生えているそうです。しかしここからかなりきついのぼりであり、お昼前にはキャンプ地には戻らなければならないということなので、私と平川さんはこの場所に残って、あとの4名は *N. x harryana* に向かうことにしました。さて、残った私たちは思い思いに大喜びで写真を撮りますが、昨日の雨の湿気で防塵防滴の一眼のカメラのレンズが曇ったまま。接眼部も曇って良い写真が取れません。しかたがないので一眼は木にかけて曇りが取れるように干して、TG6とスマホで写真を撮ります。意外とこういう過酷な環境でもきれいに写真が取れるのがスマホでした。ほかの人も一眼のレンズの曇りには悩まされていました。一眼のカメラよりカメラ機能が

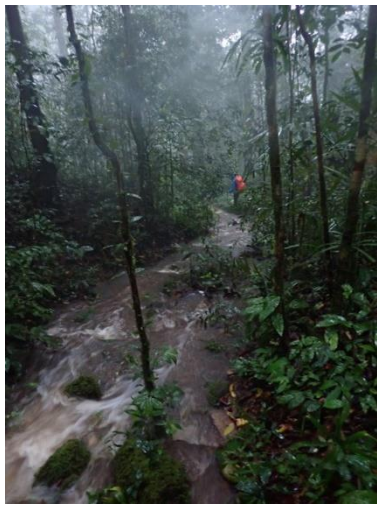
良いスマホのほうが軽くて過酷な環境での撮影にも向いているみたい…。木に登ったり斜面を下ったりしていろいろ写真を撮ります。一眼もやっと曇りが取れたのでカメラを換えて撮影も。と、しばらく写真を撮っているとドサツと音がして、ガイドのアーユーオーケー？との声が聞こえました。平川さんが木々の間から足を滑らせて、斜面を真っ逆さまに落ちてしまったようです。幸い大けがは免れましたがかなり足を痛めてしまったようです。つい写真撮影に夢中になっていると滑ったり、足場があると思って踏み込むとスカッと底が抜けたりとヒヤッとすることが度々ありました。私は写真に夢中になって手袋をなくしてしまい、慌てましたが、ガイドさんが *N. edwardsiana* の株の下の斜面に落ちているのを見つけてくれました。よかった。 *N. lowii* の写真もたくさん撮って名残惜しいですが、10時前にこの場を離れて頂上を経由して、キャンプ地に向かいました。10時半過ぎにキャンプ地に帰ってきました。今日はまた初日のベースキャンプまで戻らなくてはいけないのでテントを片付けて準備します。こここのところ毎日午後は雨が降っていますが、今日も雲行きが怪しくなってきました。11時半ごろ *N. x harryana* に行っていた4名が返ってきました。やはりかなりきつい工程だったようですが、 *N. x harryana* や *N. edwardsiana* が色々見られたようです。少しうらやましいけど私ではこの時間で行って帰ってくることはできなかつたでしょう。さて簡単に麺の昼食をとって、ゆっくり派の





私は少し早めに 11 時半過ぎには下山を開始しました。やはり急こう配の下山なので滑らないよう、転ばないようにゆっくり気を付けております。ロープ場も足を踏み外さないように慎重に。すごいところを登ったなーと自分で感心しながら降り、途中三葉虫のようなサンヨウベニボタルの雌の成虫を見つけて写真を撮りました。この虫、ボルネオに来たら見たい虫の一つで、今回はこの山で 3 回も見つけられてうれしかったです。12 時 30 分、何とか順調に 1780m の最初の休憩地にまで

降りてきました。ここであとから来たポーターさんたちに追い抜かれました。少し休んでいると雨が降り出し、慌ててレインジャケットを着こみます。その後も雨は降り続きだんだんひどくなってきます。雷も鳴ってずぶぬれ状態。途中マイクに追い越されますが、雨だから気を付けて降りろ、川の手前で待機するように言われます。14 時ごろには登山道が一面水たまりに、幸い急斜面のところは過ぎましたが、大雨は続き登山道が川のようになってしまっ、もうどこが道かもわからない状態です。最初は縁を歩いていましたが、もう途中からは登山道の川の中をじゃぶじゃぶ歩く状態に。登山靴の中も水びたしでぐしゃぐしゃ。何とか川の手前まで来たところでマイクたちが待機していました。川を見ると、来たときは清流だった川には泥水の濁流が流れていました。とても歩いて渡れる状態ではありません。マイクたちもしばらく様子見で待機だと言っています。大雨の中じっと佇みます。撥水レインジャケットのはずでしたが、もうジャケットの中も上半身びっしょりぬれてしまっています。30 分くらい待つて



マイクたちが雨除けにタープを張ってくれました。その下でひたすらじっと待つ、しかしこういう時にあのヒルは我々を狙って登ってきます。レインジャケットについたのを取ってもらったり取ったりしていましたが、ふと気が付くと首筋に違和感が・・・手で触ってみるとぬるっとしたものが！！慌てて大西さんに見てもらおうとやはりヒルが食いついていて、ひっぱてももう取れない。ギャーということで、すかさず携帯用の抗ヒル剤、「ヒル下がり」を取り出してかけてもらいます。すると何とか効いてヒルが離れてくれたようです、すぐにとってもらいました。何とか大出血する前にヒルが取れたようです。1 時間以上たつて体が冷えてきました。上半身ぬれているので寒い、寒い。雨は時々少し小降りになりますが、また雷が鳴って大降りにを繰り返しています。



あまりの寒さに幸い一枚だけリュックに入れていたホッカイロを何とか取り出し、ぬらさないようにして上着の下に入れました。しばらくするとほのかに暖かくなり、これに助けられました！！熱帯でもホッカイロは必需品です。川について一時間半はたちました。少し川の水の勢いが減ってきたように見えます。マイクたちがどこからかすごーく長い細い竹を切り出して持ってきました。それを持ちながら少し勢いの弱まった川を渡ってみようとのことです。一回目はやはり流れが強すぎて断念。2 回目再び少し流れが収まったところで挑戦して、なんとか 1 名が向こう岸まで行けたようです。さっきの長い竹を両側で持って、さらにロープも渡して何人かが川の中に入り、歩ける場所を決めて中継点に一名立



って、一人ずつわたっていくことになりました。我々も一人ずつ川を渡ります。私の番です、相変わらずすごい流れで、気を抜くと流されてしまいそうです。しっかり足を踏ん張って少しづつ、流れに耐えながら片手に渡された竹、片手をガイドたちに順番に引いてもらって何とかわたることができました。足にかかる水の圧力はすごいものでした。転んだりしたらあっという間に流されてしまいます。川を渡った後は、あとの人が渡るのを見る余裕もなくひたすら水浸しの道を下って歩きました。やっとベースキャンプが見えてきました。でもまた難関がありました。キャンプ地を流れる川も濁流になっています。いつもだったら渡るのをあきらめる状態ですが渡らなければ帰れません。幸いこちらの川はコンクリートの底になっているので、ガイドやポーターの方々が中に立って、順番に手渡しで引き寄せられるようにしてもらって何とかわたることができました。いやー、ひとまずベースキャンプ



まで戻ってこれて本当に良かった！あのまま川を渡れなかったら凍えて遭難してしまっていたかと思うとぞっとします。5時近かったでしょうか。ポーターさんの荷物は川が増水する前に着いていたようで良かったですが、やはりすべてが濡れてウェットになってしまいました。ガイドの方やポーターさんたちとお互いの健闘を称えあって、写真を撮ってお礼を言いました。服はキャンプ場に置いていたものに替えて乾いた状態にできましたが、シュラフやマットは湿った状態に。ひとまずテントを立てます。出発前に川向うで過ごしていたメンバーも、再び川を戻ることにはできずに川のこちら側でテントを張ることになりました。背負っていたバックパックは中に水が溜まっていた…。ヒルも2匹ついていました。タオルで拭いて湿ってはいるものの、何とか寝られる状態にしました。午後7時に夕食、皆ですごかった、帰ってこれてよかったと話しながら食べました。私ももうくたくた、平川さんもかなり足が痛そうです。このときくらいからちょっと後半のまた2500メートル級のきつい登山は無理かなーと思い始めていました。8時ころにはテントに戻り、来る時に買って持ってきていたビールを飲みました。おいしい、でも疲れで十分には味わえない。9時前には寝てしまいました。

探検4日目

疲れでよく寝て5時半に起床、片づけをしてテントをたたみます。川は水かさが減って簡単に歩いて渡れる状態に戻っていました。7時半に朝食。なんと、ここに来る時に使った道がすぐそこでがけ崩れで



通れない状態になっているそうです。幸い行きに乗ってきた車は町に戻っていたので、がけ崩れの向こう側までは来ているとのこと。なので、荷物をがけ崩れのところまで運んで、そこまでは歩いて行って、何とかがけ崩れを歩いて渡って車に乗るということのようです。車が戻っていてよかった！！車がここに止めてあったら数日間帰れなかったかもしれません。8時15分に出発、荷物は手押し車に乗せて運んでもらいました。が

け崩れの場所は見事に斜面が崩れ、道路を埋めて超えて反対斜面まで崩れ落ちていました。あれだけ大雨だったので地盤が緩んだんでしょう。大きな木が何本も倒れて道をふさいでいますし、そこに土砂が溜まっています。チェーンソーで木を切って人が通れるルートを作っているところでした。しばらく待って通れそうだとということで、自分の持てる荷物を持ってがけ崩れ現場を渡ります。泥がすごく柔らかく、足を取られるので滑らないように、木の幹や根の上をゆっくり歩いて跨いで進みます。泥に一回はまってしまい、靴が泥だらけになってしまいました。9時前に向こう側に来ていた車に乗り込んで出発、その後は順調に車は進み、11時10分にキナバル山のふもとの登山口のセンターに到着しました。久しぶりのキナバル山の登山口、なつかしいです、標高1580m、少し寒いぐらいです。ここで明日以降に入るキナバル山領域の入山許可証を申請します。申請後にお昼ご飯、道路の反対側のレストランでトムヤム麺とコピス



ス、おいしいです。12時40分に出発、以前の探検でも行った鉱山跡地に向かいます。坂道をぐっと下って、ラナウの街に入ったところでわき道に入ってがたがた道を登っていきます。14時ごろ鉱山跡地に到着。ここは以前日本の会社が開発していた銅鉱山の跡地で、今はもう採掘されていないのですが、当時山を切り開いて作られた道や空き地に、開発後に侵入してきたネペンテスたちがたくさん生えています。標高が870m、ここから広い道のゆるーい上り坂を登っていきます。道の両側には、*N.*

reinwardtiana がいっぱいはえています。壺の内側には特徴的な目玉模様がついています。栽培している人はあまり多くないかもしれませんが、ここでは大きいものは30センチ近い壺を付け、鈴なりに壺を付けている株や赤い系統、赤と緑の中間色などいろいろバラエティーがみられて楽しいです。そしてなんととっても、楽な登り道でゆっくり歩きながら道の両脇にたくさんネペンテスがみられるのがこの良いところ！！でも昨日、おとといの過酷登山でかなり筋肉痛が来ています。*N.*



*zakriana (fusca)*もみえてきました。細長い下位袋に細長く上に伸びた蓋、上位袋はロート型になっていてきれいです。数は多くありませんが *N. macrovulgaris* も緑色の袋を付けています。以前来た時には *N. burbidgeae* が一株あり大きな袋を付けていたのですが、今回は株はあったものの良い袋はついていませんでした。その後も緩い坂道を登って行くと左手に *N. stenophylla* が生えています。細身の袋が何本もスクッと立っています。まっすぐな坂道が左に曲がる場所の左手の空き地に、大量の *N. stenophylla* がはえていて大群衆になっています。 *N.*



*zakriana (fusca)*も混在してはえていて、さらには交雑種もあり、多くのネペンテスをはえている楽園です。 *N. stenophylla* に埋もれて写真を撮ります。各自おもしろおもしろに写真を撮って、坂をゆっくり下っ



て戻ります。多くのネペンテスが楽にみられる良い場所です。途中ちょっと雨が降ってきましたがギリギリ雨に濡れるということはありませんでした。16時半ごろにはここから出発。ラナウの街の市場に少し寄って、再びキナバル山の方向に坂道を登っていきます。いつもはクダサンの街のコテージ

に泊まっていたのですが、今回は道の反対側の小高い丘の上にあるホテルのほうに宿泊、私は10年前のはじめてのキナバル探検の時に泊まったことのあるホテルでした。ただいま大規模改修中、標高は1440m。ホテル宿泊ということでランドリーサービスが使えます。サヤップの登山で汚れたりぬれたりしてしまった服などをみんな洗濯に出します。久しぶりの文明的な生活、蛇口からお湯が出ることに感動

します。久しぶりのシャワー。サヤップで濡れてしまったテントも部屋の中で組み立てて干しました。シュラフも広げて乾かして、そのほかの湿ったものもみんなホテル中に広げて乾かしました。さて今後の後半の日程ですが、本来は2500m級のシンシン山に3泊で登る予定になっていましたが、平川さんは足の状態が良くなく、私も筋肉痛と疲労でガイドのマイクも行ったことがない2500m級のシンシン山に登るのはちょっと難しいだろうという、大人のちょっと勇気ある判断をして、私と平川さんはシンシン山に登らず、その間はクタキナバルの街で疲れをいやすという選択をすることとし、マイクと相談して日程調整しました。明日のピッグヒル登山、シンシン山入り口でのテント宿泊までメンバーと一緒に、その後はクタキナバルに戻り、3日後にアラブ山でメンバーと合流することとしました。

探検5日目

5時に起床、部屋で干していたテントなどをたたんで片付けます。6時半に朝食、ホテルのバイキング。7時10分に出発、クダサンの村のメシラウに向かう道を進んで、ガイドのスカイビンさんの家のほうを目指します。7時50分、スカイビンさんの家のちょっと先で停車、ここがピッグヒルなどの入山事務局のようです。スカイビンが待っていてくれました。久しぶりとあいさつを交わします。ここで標高1481m、ピッグヒルの入山書類にサインしました。スカイビンとしばしお話、マライパライは来年には開放されて探検が可能になるとのこと、今年は来月から現地環境調査が始まる予定であるとのこと。ここでピックアップトラックを乗り換えて2台で8時に出発、全員は座席に座れないので、何人かは荷台に乗り込みます。私は座席に。しばらく進んで、お店に寄ったところで、私は自分のザックがないことに気が付きました。なんと車を乗り換えたのに、ザックを前の車に積んだままでした。大慌てで運転手さんにそのことを告げて、さっきの場所に戻ってもらいました。でも車にかぎがかかっていたら・・・、幸い前の車の運転手は車にまだいました。慌てて私が駆け寄ると、これかとザックを指さしていました・・・、気づいていたら出発前に教えて・・・、いや、忘れた私が行けないのです。ちょっと時間をロスしてしまいま

したが、なんとかザックも持って再度出発。途中すれ違いのために待機していた前の車には追い付くことができました。キャベツなどの畑の中のでこぼこのアップダウンのある道を登っていきます。8時45分に畑のそばの空き地に車が止まります。ここで標高1813m。私は、10年前の2013年にピッグヒルに来たことがありました。その時に比べるとかなり畑の範囲が広がったように思えます。そこからは畑の中を山のほうに向かって歩いて登ります。ひたすら畑の中を登るのですが、筋肉痛もあり疲労もありでとてもつらい登りになりました。私は最後尾で何とかついていきますが、遅れがちに、これは今日はついていけないかなと思ったところで、やっと山の入り口に。ここからはジャングル状態の山登山になりました。ジャングル登山になると、両手が使えて木などにもつかまりながら登れるし、涼しくなったので、畑の中よりだいぶ楽に登れるようになりました。ほかの人が蘭の写真を撮っている間に、今日のガイドさんの後ろを先頭で歩くことに。今日のガイドさんですが、何となく以前会ったような気がして…。ガイドさんと話す機会ができたので、10年前にここピッグヒルに来たことを伝えると、ガイドさんも、もしかして日本からのヒロシと一緒に来たか？とたずねてきます。まさにその通りヒロシと来たというと、じゃあその時にガイドをしたのは私だということではありませんか！！お互いびっくり！！ガイドさんも思



い出してきたと。ピッグヒルに加えて、バンバンガーにも行ったこと、ロウイーのはえている山にも一緒に行ったことなどをお互いに思い出して話が弾みました。10年前は近所のお兄さんという感じでしたが、今では立派な専属ガイドになったようです。素晴らしい出会いでした。9時35分に1985m、もう少しでラジャがはえているところのこと。9時45分にラジャがはえているところにつきました。標高2015m、確かに見覚えがある場所でした。ラジャは大きな株がいくつかあるのですが、でも残念ながら壺がついていません。ラジャの木の背丈は1m50以上、葉っぱの長さも1m近くて、葉っぱの広さは手のひらより広くて、茎も親指よりずっと太いです。小さな袋が一つついていますが、形はラジャそのものですが、これでは小さすぎる！壺の中には、カエル？かカタツムリの卵がありました。やっと一つだけ大きめの壺を発見。しかしこれでもまだ小さい。前回も一緒になったことが分かったガイドのハリーも、前は大きな壺がいっぱいあったことや、頭が入るくらい大きな壺に頭を突っ込む真似をして写真を撮ったことなどを思い出して話してくれました。バービジアエも数本はえていましたが、良い壺は、なし。アリサプトラーナのはえているところに向かうためにいったん少し下山して、山の尾根斜面に沿って進みます、1950mから1900mぐらいの標高のところをしばらく横に進んで、少し降りたところに、アリサプトラーナがはえていました。30センチ以上のきれいな大きな壺がついています。壺の中には、ゴキブリのような虫も入





っていました。近くにはバービジアエもはえていてこちらにも壺がついていました。あたりを探すと、結構たくさんのアリサプトラーナがはえていました。同じようなサイズの木が多いので、ある時期に交配した種ができて、それがこの辺に飛んで同じ時期にはえたのではないかとのこと。皆、アリサプトラーナが見られて満足ようです、それぞれに写真を撮って下山をします。草原に出て車を止めている方に戻ります。ずっとチェーンソーの音がしています。この辺りは、山の際まで私有地なので、これからは畑の開発が進んでしまうだろうとのことでした。何とか自生地は残ってほしいです。12時半に車のところまで戻りました。ハリーとも写真を撮ってクダサンの入山事務所に戻ります。すぐ隣のお店でお昼ごはん、ミーインスパアヤム 7 リンギットとコピスを頼みました。14時にここを出発、一度昨日泊まったホテルによって洗濯に出していた衣類を受け取ります。53.5 リンギット、これで濡れていた服たちもきれいにふかふかになりました。再び山道を下って、途中ドリアンの出店が並んでいるマーケットに立ち寄ります。長谷部さんと石井さんは大喜びで、たくさんドリアンを食べています。私はマンゴスチンを1キロ、15 リンギットを10 リンギットに負けてもらって買いました。ラナウ近くまで山道を降りて、途中でトラスマディー山の方向、タン

ブナンに向かう道に曲がります。1時間半ほど走って、16時45分にタンブナン近くのスーパーで買い物、私はビールを買いました。その後はタンブナンのマーケットでマイクたちは明日からの食材を調達、予定ではここで夕食でしたが、お昼御飯が遅くまだ時間が速いのでこのまま今日の宿泊地に向かうことに。トラスマディー山に向かう道を進んで、途中で別れて17時半に今日の宿泊地につきました。川のおきの河原の空き地に、できたばかりの木造の大きなバツラクのようなシート張りの小屋が一軒あって、もう一軒建てているようなところでした。今後ここをシンシン山登山のステーションとして使用するようでした。小屋は板張り床があり、中も2列あって広さは十分です。この床の上にテントを張ります。雨に濡れないので快適だし、電気も来ていて明かりもつきます。6時半に夕食、マイクたちも買い込んだビールを飲んでいて、我々もビールをたくさんいただきました。明日からのガイドの人も、マイクもかなり夜遅くまではしゃいでいました。翌日以降は、コタキナバルでお買い物や町散歩を楽しみ、好きな麺料理を食べて、夜には海沿いのマーケットレストランでたくさんエビカニをおいしく食べたりし、最後にアラブ山、ラフレシアの花見学などをして有意義に旅を終えることができました。また来年もボルネオへの旅を計画しています。次回からはきつめの山登りは一か所にしたいと思っています。ボルネオ探検に御興味のある方はぜひ探検参加をご検討ください。



ブナンに向かう道に曲がります。1時間半ほど走って、16時45分にタンブナン近くのスーパーで買い物、私はビールを買いました。その後はタンブナンのマーケットでマイクたちは明日からの食材を調達、予定ではここで夕食でしたが、お昼御飯が遅くまだ時間が速いのでこのまま今日の宿泊地に向かうことに。トラスマディー山に向かう道を進んで、途中で別れて17時半に今日の宿泊地につきました。川のおきの河原の空き地に、できたばかりの木造の大きなバツラクのようなシート張りの小屋が一軒あって、もう一軒建てているようなところでした。今後ここをシンシン山登山のステーションとして使用するようでした。小屋は板張り床があり、中も2列あって広さは十分です。この床の上にテントを張ります。雨に濡れないので快適だし、電気も来ていて明かりもつきます。6時半に夕食、マイクたちも買い込んだビールを飲んでいて、我々もビールをたくさんいただきました。明日からのガイドの人も、マイクもかなり夜遅くまではしゃいでいました。翌日以降は、コタキナバルでお買い物や町散歩を楽しみ、好きな麺料理を食べて、夜には海沿いのマーケットレストランでたくさんエビカニをおいしく食べたりし、最後にアラブ山、ラフレシアの花見学などをして有意義に旅を終えることができました。また来年もボルネオへの旅を計画しています。次回からはきつめの山登りは一か所にしたいと思っています。ボルネオ探検に御興味のある方はぜひ探検参加をご検討ください。

